

平成 28 年 12 月吉日

関係団体各位

(経済産業省業務受託者)
有限責任監査法人トーマツ
リスクアドバイザー
ディレクター 山口 匡

我が国の資源循環の推進に関するアンケート調査へのご協力のお願い

拝啓 皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

今年度、経済産業省において「平成 28 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査業務（EUとの規制協力：資源効率に関連する動向等調査）」を実施しており、当法人（有限責任監査法人トーマツ）はその受託者として、我が国の資源効率の推進に関するアンケート調査を行っております。

皆様におかれましては、本件の目的に鑑み、このアンケート調査へのご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、本アンケート調査につきましては、ウェブ上で実施いたします。貴会におかれましては、当法人からアンケートURLをお送りいたしますので、貴会員企業皆様にメールで転送いただくなど、ご案内いただけたらと幸いに存じます。

敬具

記

1. アンケート調査の目的

このアンケート調査は、日本全体として資源循環を推進するために、国内の事業者の皆様がどのようなご意見を持っておられるのかを把握することを目的としています。とりわけ、皆様がどのような点に関して課題認識を共有しておられるのか、あるいは、立場の違いによって、どのような点に関して意識の違いが見られるのかを把握することは、日本全体としての資源循環を推進するためのスタートラインであると考えております。

アンケートの結果は、本業務の報告書にまとめられるとともに、経済産業省が日EU産業政策対話に基づく、資源循環分野にかかるビジネス円滑化のための協力及び政策検討の際の参考情報として用いられる予定です。

2. 概要

(1) 実施方法

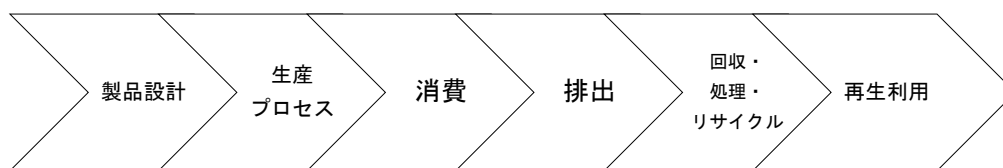
アンケート調査は、経済産業省の委託を受けた当法人が実施いたします。本アンケート調査は、ウェブ上で実施します。貴会におかれましては、当法人から送付するアンケート回答ウェブサイトのURLを貴会員企業皆様にメールで転送いただくなどのご案内をお願いいたします。

(2) アンケートの構成

資源効率の分野では、製品ライフサイクルの各段階にわたり、取組みを促進していくことが求められています。本アンケートの調査項目については、製品ライフサイクルごとに設問を設定しています。

設問は、そのライフサイクルの段階ごとに課題と、それに対する対策等について設定しています。

(参考) 製品ライフサイクルの段階



- ・製品設計段階 製造メーカー等において、製品設計を行う段階。
- ・生産プロセス段階 製造メーカーにおいて、製品を製造する段階。
- ・消費段階 消費者が製品を購入し、廃棄するまでの段階。
- ・排出段階 使用済み製品をもう使わないもの（廃棄物）として排出する段階。
- ・回収・処理・リサイクル段階 使用済みとなった製品を回収し、処理・リサイクルを行う段階。
- ・再生利用段階 リサイクル等により生成された再生資源（再生品含む）が、素材メーカーや製造メーカーによって利用される段階。

(3) 回答方法

次の URL より回答用ウェブページにアクセスして、回答をご記入下さい。

<https://rsch.jp/c327304b33f5b861/login.php>

アンケート調査の回答手順は、下記のようになっております。内容をご確認

の上でアンケートへのご協力をお願いいたします。

<ID とパスワードの取得>

- 上記 URL にアクセスし、ID とパスワードの取得をお願いします。
(ID とパスワードは、メモを取り控えてください)
- ID とパスワードを入力し、アンケートに進んでください。

<中断方法>

- アンケートを中断する場合は、そのままウェブを終了していただき、アンケートを再開する場合は、上記で控えた ID とパスワードでログインすると、前回の続きから再開できます。

<回答者が複数にまたがる場合>

- アンケートは貴社において複数の部署の業務にまたがった内容の可能性があります。事前に各部署の回答を集約した上でアンケートに回答される場合には、ウェブページ冒頭で、アンケートをダウンロードできますのでご活用ください。

<前のページに戻る場合>

- アンケートページ下部の『前にページに戻る』ボタンで前の回答に戻った場合、戻ったページ以降で回答した内容がクリアされますので、ご注意ください。

(4) 実施期間

平成 28 年 12 月 12 日から 12 月 30 日まで

【留意事項】

- 本アンケート調査へのご協力依頼が複数の経路から来た場合は、いずれか一つに回答して下さい。
- ご不明な点等がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：

<調査の内容、実施スケジュール等に関する問い合わせ>

有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー

担当：栞田、島田、奥田

E-mail：resource_efficiency2016@tohatsu.co.jp

<アンケートの操作方法に関する問い合わせ>

マイボイスコム株式会社

担当：石橋、中村、中島

E-mail：voice@myvoice.co.jp

以上

用語集

用語	意味
環境配慮設計	製品のライフサイクル全体の環境負荷を低減させるために、環境に配慮して製品を開発設計することをいう。 このアンケートにおいては、製品の耐久性、修理可能性、再生利用性（リサイクル可能性）、手解体・分解の容易性、といった特性を向上させた設計や再生資源、リユース（再使用）部品を使用した設計のことをいう。
再生資源	使用済の物品や副産物の中で有用なもので、原材料として利用することができるもの又はその可能性のあるものや、再生品（リサイクルされて製造されたもの）をいう。
製品ライフサイクル	製品が生産されるところからリサイクルされ、再利用されるまでの一連の流れを言う。本調査では、製品設計段階、生産プロセス段階、消費段階、排出段階、回収・リサイクル段階、再利用段階と定義する。
資源効率	Resource Efficiency の和訳。地球の限りある資源を最小限の環境上の影響で持続可能な方法で使うことであり、最小の資源投入で最大の価値を生み出すこと。 資源効率を向上させる手段として、資源循環・3Rの推進等があげられる。
リマニファクチャリング (Remanufacturing)	再製造。使用済みの製品を回収し、再利用可能な部品を選別・洗浄・修理して、元の製品と同等以上の品質を有する製品を製造すること。
リビルディング (Rebuilding)	再構築、復元。製品製造で発生した不良品等の欠陥部分を交換することや使用済み製品から得られる部品を研磨等の手を加えて元の製品と同等以上の品質を有する製品を製造することなど。
製品の環境フットプリント	考えられる製品のライフサイクル環境影響を測定・伝達するための一般的な方法により、調査された結果のことをいう。